

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	つくし園		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54 (回答者数)	45
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・設備、環境、職員体制等のハード面が充実していること。	・福祉系有資格者が多い。 ・旧保育所施設を使用し、目的に応じて部屋を使い分けている。特に運動を中心としたからだづくりに力を入れている。 ・毎日の掃除や消毒、環境設定を行っている。 ・職員研修日をごまめに設定し、資質向上の時間を確保したり、外部研修を受講している。	・各資格の専門性を発揮した支援を充実させる。 ・研修を継続し、多様なニーズに対応できる職員を増やす。
2	・関係機関との連携が充実していること。	・医療機関や市の相談事業等には、必要性に応じて選別しながら同席し、子どもや保護者と情報共有を行っている。 ・並行通園先に出向き、事業所外での子どもの過ごしについて参観する機会を持っている。 ・就学を一緒に考えていくための5者面談などの面談を行っている。	・引き続き、連携を図り、気軽に子どもの様子や関わりについて共有できる関係を築いていく。 ・関係機関からの見学を積極的に受け入れていく。
3	・子どもや保護者が安心して通える取り組みを工夫している。	・課題をさせられる、導かれて取り組むのではなく、子どもの思いに耳を傾け、意欲を持って、主体的に向かえるように動機付けや活動の展開を意識している。 ・写真入りの連絡ノートや療育の説明などを出来るだけわかりやすく丁寧に伝えている。 ・保護者サロンや情報発信会などを行っている。	・引き続き丁寧な関わりを心掛けていくが、活動や関わりの意図や目的を整理していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員育成の手段やプログラムが確立していないこと。	・育成する職員と受ける職員のバランスが偏っているため、現場レベルでOJT的に学べる機会が少ない。 ・方針は徹底しているが、感覚的な捉えで関わっていることが多く、事業所として子どもをどのように捉えるのかが十分に確立されていない。	・事業所としての思考の標準化を行い、共通認識を持って療育を行っていく。
2	・子どもの様子や活動、環境等のつながりを踏まえた分析する力やアセスメントが個々の力量によって左右されること。	・分析に必要な発達に関する知識や療育に関する理論等の基礎知識が不十分であること。 ・対象児に必要なことや支援者としての思い等のニーズの整理や目的の共有が不十分である。	・内部、外部研修を通じて基礎知識を深めていく。 ・個々の職員の意識改善や自己研鑽が必要である。
3			